

4

スタートカリキュラム実践事例

スタートカリキュラム実践事例 目次

スタートカリキュラムを実践しよう	……	91
1 基本的な生活習慣の育成のために	……	91
2 週ごとの指導計画や時間配分の工夫	……	95
事例1 「はじめまして がっこう はじめまして ともだち」	4月第2週 入学 6日 ……	99
※登校時から1校時に「なかよしタイム」のある事例		
事例2 「はじめまして がっこう はじめまして ともだち」	4月第1週 入学 5日 ……	101
事例3 「がっこう だいすき ともだちだいすき」	4月第2週 入学 9日 ……	103
事例4 「がっこう だいすき ともだちだいすき べんきょうだいすき」	5月第8週 入学3 5日 ……	105
事例5 「がっこう だいすき ともだちだいすき べんきょうだいすき」	5月第8週 入学3 7日 ……	107
(運動会未実施版のみ)		
事例6 「げんき いっぱい うんどう だいすき」	6月第1 2週 入学5 4日 ……	109
事例7 「たのしみだね なつやすみ」	7月第1 5週 入学6 5日 ……	113
事例8 「せいかつリズムをとりもどそう」	9月第1・2週 ……	117

スタートカリキュラムを实践しよう

1 基本的な生活習慣の育成のために

小学校入門期においては、児童が安心感をもって主体的に学校生活を送れるよう、「児童の実態」を踏まえた上で、「安全・安心に楽しく」、そして「先生や友達と豊かに関わり合い」、「様々なことに興味・関心をもって（学習のきっかけをつかみ）主体的に自己を発揮しながら」、学びに向かえるために学習環境を柔軟に構成することが不可欠です。それらの環境が整えられることにより、スタートカリキュラムの実施が円滑に行われ、児童に基本的な生活習慣が身に付いていきます。

〈園と小学校の環境の違いを知る。違っている面が児童にとっての不安材料〉

- ・園舎や園庭、保育室、プールなどの規模が比較的小さい場合が多い。（プールのない園もある。）
- ・幼児用に低い設備・備品：ホワイトボード、トイレ、水飲み場、テーブル、椅子がある。
- ・自分専用の机と椅子がない（共用、必要に応じて持ち出し、終わると各自で片付ける。）
- ・文房具（はさみ・のり・えんぴつ・紙類）は教室に置かれ共用の園が多い。
- ・文字情報より絵や図が中心 ・時間割がない（大体の流れはあるが時間の区切りが柔軟）

小学校の教職員は、これらの大きな違いが入門期の児童にとっての戸惑いや不安の原因となることを知り、児童が安心感をもって生活できるよう環境を見直していきたい。



中央に共用の糊や鉄、手拭

基本的な生活習慣 —生活習慣・学習習慣—

- 挨拶・言葉遣い
- 持ち物・片付け
- 時間を守る・見通しをもつ
- 話の伝え方・話の聞き方
- 人との関わり方
- 約束を守る
- お弁当・給食



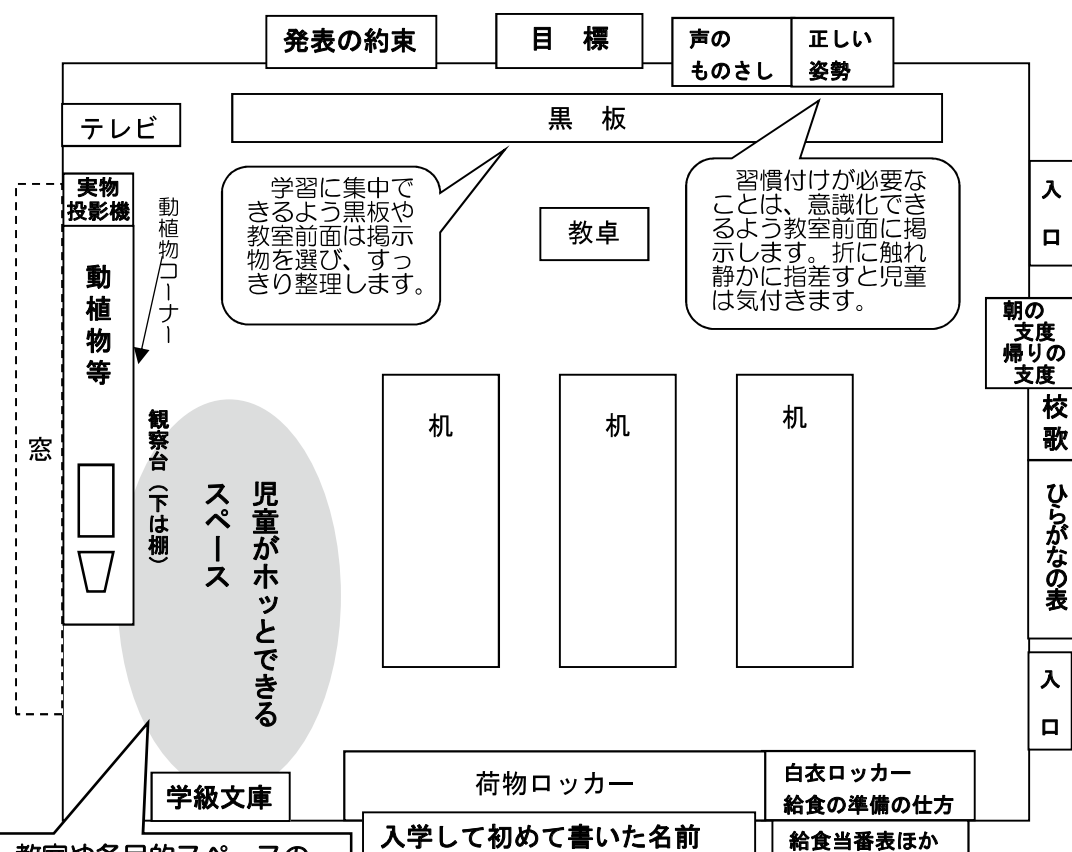
一人一人の本立て



整頓された教室後ろ

(1) 教室環境

① 入門期の机の配置

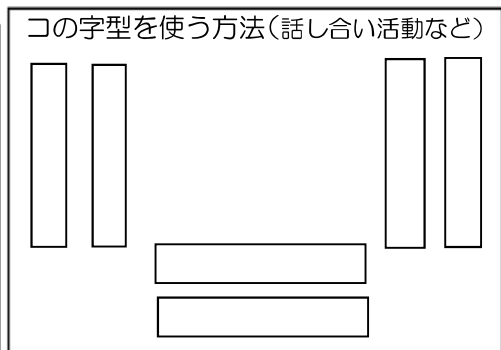
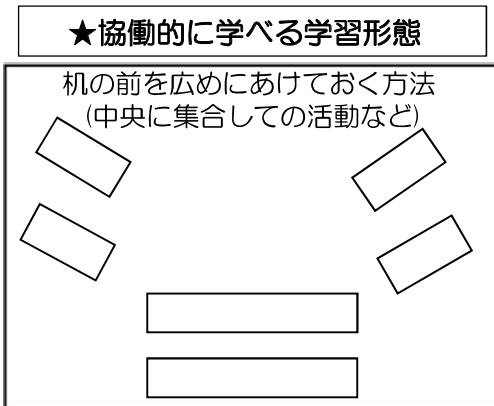


学習に集中できるように黒板や教室前面は掲示物を選び、すっきり整理します。

習慣付けが必要なことは、意識化できるように教室前面に掲示します。折に触れ静かに指差すと児童は気付きます。

児童がホッとできるスペース

教室や多目的スペースの一角に「ホッとできるスペース」を！
このような場合は、どの学年にとっても大事です。
特にこれまで時間割の無かった1年生には、慣れない環境の中で過ごすストレスの解消として、身近な所に園での生活であったような場が設定されているとクールダウンできます。



②子供たちの目線に立った学習環境の見直し

～初めての「自分の机」：児童の体に合った机や椅子に配慮していますか～

子供の体に合わない机や椅子を長期間使用し続けていると、心身の健康や学習意欲・学力向上に良くない影響を及ぼします。

子供たちが入学したらすぐに担任自身が児童一人一人の体格に適した机と椅子かどうかを必ずチェックし、調整しましょう。

特に体格の小さな1学期始めや、体格が一回り大きく育ってくる2学期や3学期のスタート時に再度確認し調整することが重要です。

○体格に合っていない机や椅子

- 低い机：上腕（肘まで）と机（天板）の間が離れている。その結果、背骨を曲げた前屈みの体勢の継続や、児童の太ももが机下（椅子との間）で押しつぶされている例
- 高い机：上腕（肘まで）が机に垂直に置けず、肘が体側から離れて机の天板に置かれた結果、教科書等と目との間隔が近すぎてしまう例
- 高い椅子：宙に浮いた脚（常時不安定）の例

○不適切な机・椅子を継続使用した場合の児童への影響

- 身体への影響…心身の健康・安全面
視力低下 脊椎側湾症
けがの危険性 精神不安定
- 学習への影響
学習規律の崩れ 集中力減退
学力や意欲
- 保護者の学校への信頼…安全・安心・学力

○担任が子供の目線で確認・改善を

机や椅子、教室の席順が後ろの方か前かなど、学習への影響について配慮します。

特に配慮が必要なのは後方の席です。黒板が見えにくい状況が無いようにします。

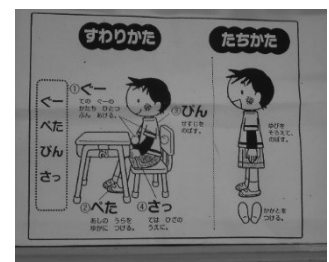
前の席で学習してする子供たちと変わらず、すべての子供たちが等しく教育が受けられるよう、子供から見える学習環境をチェックし、改善していきましょう。

（黒板ばかりでなく資料・作品や、先生の問いかけや友達の発表なども含みます。）

1学期のスタート時に、「良い姿勢(適正な机と椅子の例)」の掲示物を常掲し、繰り返し指差して気付かせる。

◎適正な例

- 足裏全体が床に付いている。
 - 上肢と下肢、上腕と前腕が直角になっている。
 - 背筋が伸びている
- （「小さな芽」基礎編 P65 参照）



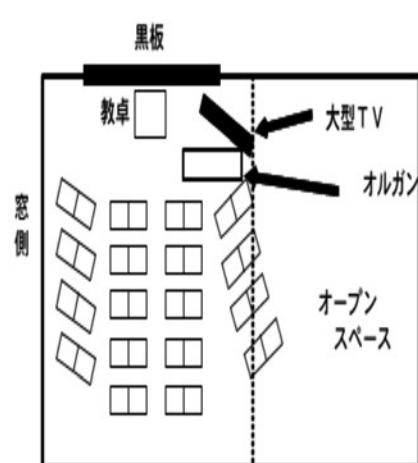
※高すぎる椅子

- 脚が床から離れ、ぶらぶら揺れている。（揺らしている）



どの子供からも板書がよく見えますか？

テレビなどが障害で見えない板書



黒板に正対できるように両端の列を斜めにする際に、床に脚の印などがない場合、子供自身で揃えられずオープン部分まではみ出てしまう。

③基本的な生活習慣を育成するための分かりやすい掲示物

子供たちは、小学校入学を楽しみにしてきました。先生の温かい受容の中で、いろいろなことに興味・関心を持ち、新しい生活や学習に前向きに歩み出せるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児期との接続を意識した習慣づくりを工夫していきましょう。

入門期は、規律を守らせることを優先して指示が多くなる傾向があるようです。まずは、教師が指導する規律と児童の主体性（考えさせ納得させて決めていくルールなどの工夫）のバランスをとっていきましょう。先生が常に声に出して指導しなくてよいように、分かりやすい掲示物が必要です。

○大きい字で短文に 絵と色を組み合わせて視覚的に

- ・1学期は少なめの文字でめあてやその他の掲示をしましょう。

黒板の周囲に長い文章で目標や学校のルールなどが掲示されていることがあります。入門期の子供たちは、これからひらがなを正しく習います。もちろん書いたり読めたりする子供もたくさんいますが、読むだけで時間がかかり活動が遅れる子供もいます。必要以上に情報を掲示し過ぎないように配慮しましょう。

- ・「話し方・聞き方」は、「学習・生活習慣」づくりの土台ともなります。国語科の「話すこと・聞くこと」の目標を基に、全教育活動で意識できるよう掲示物を常掲しましょう。

○活動の見通しがもてるような表示を

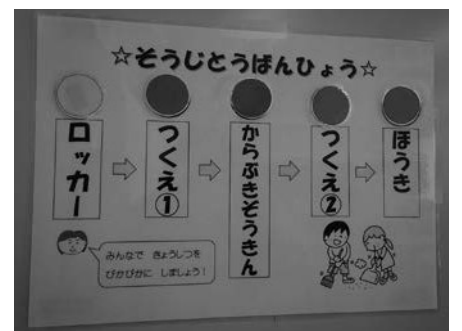
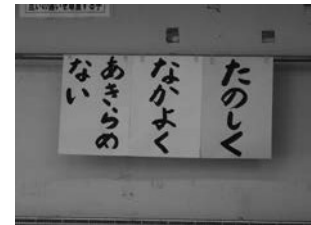
- ・1年生になると自分たちで清掃をするようになります。清掃活動を始め際には、まず学級活動の時間を使って清掃の仕方や役割などを丁寧に指導し、その後の日常の清掃は担任も一緒に行います。

子供たちは、幼児期から「共通の目的に向かって、主体的・協同的に取り組む」活動を経験しています。担任は幼小の滑らかな接続を意識し、清掃の手順を簡単に書いた掲示物を教室の側面か後ろに常掲しておくことで、教師主導から徐々に子供たちが主体的・協同的に取り組めるにしていきます。

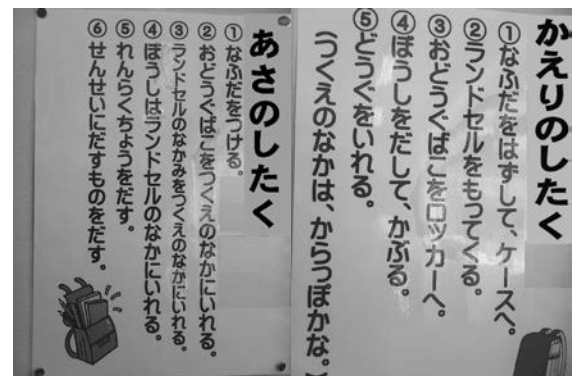
- ※右の掲示物の表記について：「ロッカー」は、「ろっかあ」と書くと国語の「のばす おん」の学習で習った通りに表せ、実生活に生かせ、復習としてよいです。ただし、習っていないカタカナも日常的に使いたい場合は読み方を教えます。

- ・この他にも、給食当番の手順や朝の支度・帰りの支度など、学校にきたらすぐに行う活動や帰りに行う活動など、日々覚えていかなければならない活動があります。

なるべく短文で、（文でなく、単語でも）絵なども付け、少しでもイメージがもちやすくします。掲示物を見ながら楽しく主体的に活動することの積み重ねで習慣付けできるようにしたいものです。入門期の情報過多に常に注意する必要があります。



順番だけの表だと早く分かる



(2) 安心を生み成長・自立を支える人的な環境

①教職員

先生は大切な環境（特に担任・学年の先生）

- 笑顔で子供と関わっていますか
- 授業中の立ち位置を意識していますか
- 子供と一緒に活動していますか
- 児童の様子を温かく見守っていますか

P96 参照

温かい
担任の言
動が重要



校内体制

- 全教職員の見守り（笑顔で児童に対応）
- 養護教諭・学校栄養職員との関わり（給食・健康診断ほか）
- 専科教員・支援員のサポート（TT体制）
- 各教科等主任との関わり（カリキュラムデザインへの協力）

②児童・園児

上級生の助言・補助

- 朝の時間での読み聞かせ等
- 給食準備の補助（写真）
- 清掃の仕方のレクチャー



「お皿の真ん中に2こずつだよ」

異学年交流活動

- 2学年と学校探検
- 高学年と遠足
- 上学年と集会活動
- ピクニック給食
- 集団登下校



「ストローのやり方は・・・」

園児との交流

- 5歳児と合同授業・給食
- 運動会・学芸会などの行事



1年生が5歳児と合同授業

③家庭や地域の人々

家庭（保護者）との連携

- スタートカリキュラムの周知・理解
- 双方向での情報発信
連絡帳・電話・学級（学校）便り・保護者会
- 各種連絡会・PTA活動

地域との連携

- 夏（秋）祭りなど季節の行事、バザー、地域子供会など



開かれた教育課程

令和2年度から実施される小学校学習指導要領には、改訂のポイントの一つとして、学校関係者のみならず、子供を取り巻く大人がこれまで以上に学習指導要領の中身を共通理解し、協働するようという趣旨の内容を謳っています。

これまで以上に、家庭、地域、学校との連携が重要になります。

2 週ごとの指導計画や時間配分の工夫

週ごとの指導計画を立てる際は、幼児期の遊びを通した学びから小学校での教科等を通した学習に徐々に移行できるようにしていきます。

幼児期と同じように、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうよう導きたいものです。

低学年の特性は、心と体を一体的に働かせて遊んだり学んだりすることです。そのため、幼児期の遊びを通した総合的な学びを生かし、直接体験や具体的な活動を通して感性を働かせたり、身近な出来事から様々な発見や気づきを得て考えたりすることを積み重ねていくことが大切です。

入学当初の週ごとの指導計画や時間配分の工夫

① 幼児期の経験から指導計画を立てる。

② 幼児期の生活に近い活動をする。

生活科を中心とする
合科・関連的な学習

・幼児期の総合的な活動による学び⇒小：教科横断的な視点での生活科を中心とする、合科・関連的な指導計画

③ 弾力的な時間割の設定をする・・・様々な教科・領域での学習（例 P70 参照）

・短時間（1 モジュール 15 分で 3 活動、20～25 分で 2 活動 等）

・長めの時間（60 分・90 分など）

(1) 「幼児期の経験から指導計画を立て、幼児期の生活に近い活動」の例（上記①②）

人形（パペット）を日常的に活用している学級の事例です。

人形は、子供たちにとって親しみやすく身近な存在です。幼児期にもよく使っていた身近な遊び道具の一つです。心が癒されたり、雰囲気柔らかくなったりします。

・人形を入学時の児童や先生とのコミュニケーションを図る手段としたり、学級のシンボルとなるマスコットとして、みんなでかわいがったり話しかけたりする等の活用法があります。

（指人形・ペープサート・ぬいぐるみなど）

・授業中も児童を認めたり、指導したりするとき（注意したりするとき）や、言いにくいことを言うときにも、人形を通して伝えることで、容易に受け入れられる等の効果が期待できます。



・Oくん、友達に悪いことをしたら、「ごめんなさい」を言わなくちゃダメだよ。

・できないときは、誰かに「手伝ってくれる？」って頼むといいよ。

・みんなよくがんばったね！

（A君・Bちゃん）

【楽しく遊べる人形の活用】

柔軟性のある環境づくり

場の設定、具体物や半具体物・視聴覚教材の活用、教師の言動 等

事例「単元名：バムのおかたづけ」（道徳的価値：片付け・整理整頓）



人形とICTの活用：子供たちの掃除の映像を見て人形が感想を言う。
(身近な映像は興味・関心が高い)



場の設定：担任の前に集合し、マスコット(A・B)も一緒に話し合い。
(集中が難しい4・5校時等に効果的)



教材：ショートストーリーが適切。
板書：黒板の文字も短い単語にする。
(入門期の子供たちに適切)



担任の言動

- 柔らかく温かな言動
- 1年生に分かる速さで丁寧に
- 認め励ます言葉
- 別の点を褒めながら、改めたい点を素早く直させる話術
- 該当しない子(家での手伝いの経験のない子)にも配慮した言葉
- 個々の発言を短くまとめて板書(自分の考えを板書された満足感)
- 学習・生活規律を適宜育成(方法：人形で、促すように、時に語気強く)
- 全ての子に同じ呼称「～さん」



※人形が2つある場合は両性を。1つの場合は性別の不明確な動物などがよい。
※この時期の子供たちの文字習得は個人差が大きい。
「自己の振り返り」で、書きたい文章が自分の思い通り書けない子は、付け足して人形に話すようにする。



Bちゃん人形に「振り返り」をする。
書き足りなかった思いを口頭で伝える。



2人の子が同時にA、Bへ話す。
(人形が聞き手だと話しやすい)



「ぼくはBちゃんに話したい」
(自分の思いを話す意欲へ)



「～さんは、どっちの子に話しますか?」
(話す相手を選択できる)



(2)弾力的な時間割の設定

事例「給食の準備をしよう」(学級活動・または生活科)の授業(4月当初)

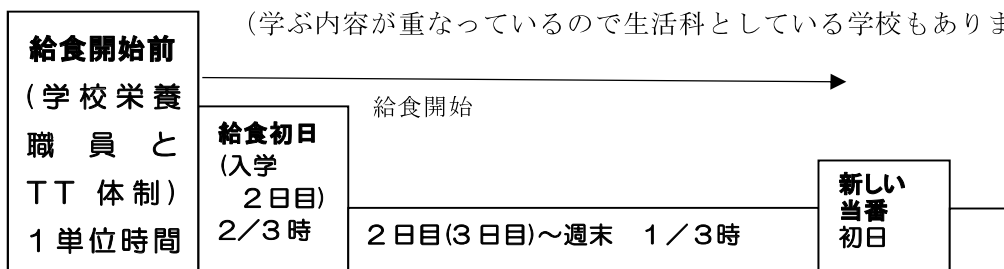
食に関する指導は、身に付けたい「基本的な生活習慣」の一つです。

子供たちにとって、小学校入門期に難しい活動といえば、教科学習より給食当番や清掃など(一部の園ではアプローチ期に少しずつ簡単な活動をしています)多くの児童がこれまでほとんど未経験であった作業を伴う活動です。ほぼ毎日行う活動なので早くスムーズにできるよう習慣化したいものです。

4月当初(実態によっては、5月連休明けまで)4校時後半に、学級活動の時間を設定し、繰り返し分かりやすく指導していきましょう。慌てさせずに仕事をすることやそれらを積み重ねていくことで順序立てて作業を行う力の基礎が身に付き、その後の学校生活でも良い影響を及ぼしていくと考えられます。

(例) 4校時後半の学級活動の時間設定

(学ぶ内容が重なっているので生活科としている学校もあります)



○給食当番の仕事进行を教える。給食が開始される前に一度は1単位時間全体で指導する必要がある。

- ・第1回目の指導の際には、学校栄養職員とTT体制で行いたい。
- ・学校栄養職員には、白衣を着る意味、手の洗い方の大切さや、好き嫌いなく食べることの体への影響などについても伝えてもらう。



学校栄養職員と給食開始前の学級活動

○給食当番は、当番が交代になった最初の日には、白衣の着方、立ったままでのたたみ方や袋に入れてロッカーに収納するまで、仕事の分担や当番表の見方等について丁寧に指導する。

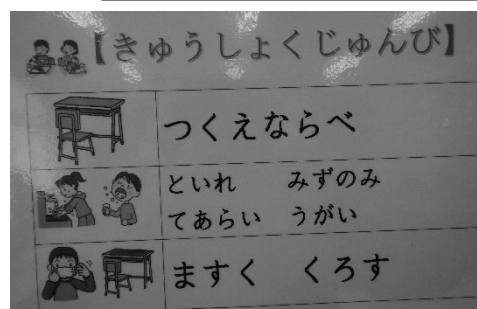
1週間程度で、給食当番が新しく入れ替わる学級が多いようである。従って、1週間後、2週間後に当番をする児童にとっては「初めての給食当番」である。(6班あれば5月中頃まで「初当番」の児童がいることになる。4月2週目、3週目と進んでいくうちに、指導者側は大分経ったから習慣化されたと勘違いしがちである。)



「今日はワゴン当番だ!」

○当番でないときには、自席で待ちながら当番の活動をよく観察させるとよい。(観察だけでも大体覚えてできる子供、実際にやらないと理解が難しい子供がいます。)

○4校時後半の学級活動として行う活動は、給食当番以外の児童も含め学級全体で当番児童や手順などを聞き確認したり質問したりする。



安全：全員が行う給食準備

「幼小の滑らかな接続」のために行う就学前の情報を踏まえた指導

幼児教育・保育に携わる保育者は、子供たちが小学校へ入学したら、給食時に「どんな生活習慣を身に付けたり当番活動をしたたりしているか」を、小学校の指導者は、公立の保育所・幼稚園・認定こども園など、それぞれ園での活動の仕方を互いに知り、指導の工夫をしていくことで接続がより滑らになっていきます。

【就学前（アプローチカリキュラム後半）の子供はこのような経験をしています】

お弁当（内容・量など家庭の味で味わう安心感）

○各自のカバンからお弁当を出します。

- ・当番がお茶を運びます。お茶がこぼれないように、やかんの口を上げて運ぶことや、やかんのふたを押さえて注ぐなどに注意して配ります。
- ・こぼす、注ぎすぎて足りなくなったなどの経験を繰り返しながら、子供たちは机上のコップに上手に注げるようになっていきます。
- ・みんなで「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をします。



給食（皆と同じものを同じ器で味わう一体感）

○給食当番はエプロンや三角巾（帽子）を身に付け身支度をします。

- ・お箸、盛り付けられたお椀・皿（熱くなく、こぼれやすすくないもの）など、一部のものを1つずつ（お盆を使わず）運ぶことが多いです。アプローチ後期になると白衣やお盆を用意して運んでいるところも見られるようになります。
- ・その日の献立を皆に伝え、みんなで「いただきます」の挨拶をします。（「ごちそうさま」の挨拶をしている園もあります。）



▲エプロンと帽子でお当番

○片付けは、各自が残菜入れに残菜を入れ、同じ種類の食器を重ねます。

見接続し期の立幼て小が表行つてゐる



保育者はこのような配慮をしています。

- 正しく配膳できるように、配膳図の掲示や声掛けをします。
- こぼすなど失敗してしまったときは、次から失敗しないようにするためにどうするか気付かせる声掛けをします。
- 献立や食材の名前に関心をもたせるため、当番の幼児に発表させたり、食事中に「これ、何だ？」など、クイズ形式での楽しい会話をしたりしています。
- 学校給食を意識し、時間内に食べることができるようにしています。（長い針が11になったら「ごちそうさま」をしますよ。）
- 一人一人の食の状態を理解するために、家庭との連携を、大切にしています。（食物アレルギーほか、日々の体調と食欲など）



6年生がレクチャー



個々の準備の仕方を丁寧に

【小学校入門期の工夫】

- 4月中は、給食の準備や食べる時間、片付けの時間を含め、給食時間を少し長めにとるようにします。
- 栄養職員や専科の教師が担任の補助をしたり、6年生が1年生のサポートをしている学校もあります。
- 教師が盛り付けの見本を示し、児童はそれを見ながら盛り付け方を学びます。
- 学びの質や量が同学年で大きく異ならないよう、食育の計画を基に、学級間の連携を大切にしながら進めます。

食に関する指導の目標

- ① 食事の重要性
- ② 心身の健康
- ③ 食品を選択する能力
- ④ 感謝の心
- ⑤ 社会性
- ⑥ 食文化に関する理解






事例 1

【 登校時から 1 校時に「なかよしタイム」のある例 】

第 1 学年

4 月第 2 週
入学 6 日目

「 はじめまして がっこう はじめまして ともだち 」

時刻	類型	学 習 活 動	◇予想される児童の姿 スタートカリキュラムの考え方を取り入れた ★環境の構成 ★教師の配慮事項や指導の工夫
8:10 8:30 8:45 1時間目 学活1/3 国語1/3 音楽1/3		○登校する。 ○ランドセルを片付ける。 ○連絡帳や提出物を出す。 ○持ち物の整理・授業準備 ○好きな遊びや活動をする。 (飼育栽培物の観賞・観 察、読書、折り紙、自由 帳に描く) ○朝の会 ・先生の話・健康観察 ・読み聞かせ ・歌・手遊び・リズム遊び ・じゃんけん列車 など	◇不安はあるが、登校してからの手順が少しずつ分かる表示を見ながら自分で朝の支度をしたり、友達と好きな活動や遊びをしたりする。 ★一人一人フルネームで呼名し、元気がどうか聞く。 ◇教師が自分の名前を呼んでくれて嬉しい。 ★まだ不安な気持ちで登校している児童がいることに配慮し、前日までの「なかよしタイム」の活動を繰り返す。 ◇先週と同じ活動の流れなので安心感や見通しをもつ。 ★教師も一緒に活動に入る。 「先生や友達と過ごすのは楽しい」と感じられるような雰囲気作りをする。
3時間目 国語1/2 ※また は生活 1/2 音楽1/2	 	「どうぞよろしく」 ○友達同士で自己紹介をする。 ・振り返りをする。 「うたでなかよしになろう」 ○歌クイズをする。 ・チューリップ・ちょうちょう ・ぞうさん・こいのぼり等 ・校歌を聞いたり口ずさんだりする。 ○「さんぽ」を歌う。 ・楽しんで歌ったり動いたりする。	◇新しい友達に名刺カードを渡して自己紹介をする。 自分の好きなこと(もの)を話したり、名刺カードに書かれている絵の話をしたり聞いたりする。 ★新しい友達の名刺カードが何枚になったか数えさせる。カードが少なくても休み時間などにできることを話す。 ★担任以外にも、いろいろな先生が見守ってくれていることに気付かせる。今後、養護教諭・栄養士・校長・副校長・支援員などとも名刺カードが交換できるように教室に準備し、児童にも伝えて見通しや期待感をもたせる。 ★全教職員に協力を依頼する。(学校探検時でも可) ★できるだけ多くの児童が園で経験してきた歌を選択して弾く。(CD等でも可) ◇知っている曲なので安心し自信をもって挙手する。 ★多くの児童が挙手できるよう、同じ答えだった児童にも挙手させ当たった喜びを味わわせる。 ★教科書のページを開き、絵を見て楽しいイメージをもたせる。 ◇園等でも経験している児童が多いので、始めから曲を弾き、みんなで歌い出す。 ◇教室を元気に歌いながら散歩するイメージで歩く 略
4時間目 帰りの 会	 	・お話タイム、しりとり ・じゃんけん列車、オノマトペ「ハイタッチ」等で下校 など	※全授業終了時(または帰りの会)、週末 等 ★本日の授業の最後は、翌日(金曜日の場合は次週)の登校も楽しみにできるように、短時間で友達や教師と楽しく関われる活動を組み込む。

〈ポイント〉

・安全・安心

- ・ 幼児期の生活に近い活動をする
- ・ 分かりやすく学びやすい環境の工夫 (P91 参照)
- ・ 児童と担任を支える学校体制(TT)

・楽しさ

- ・ 人と関わる楽しい活動

事例 1-①入学 1 週目 1 校時「なかよしタイム」(TT)の例

オノマトペ活用
「じゃいくよ、皆で一緒に「1、2、3、4、5、ぴよん、ぴよん」「楽しい!!」園と同じような場の設定で、話を聞いたり感想を言ったりする。

それぞれの学級で「学級の友達と仲よしになろう」(国・学活)



お話を聞こう(国)
「いなばの白うさぎ」

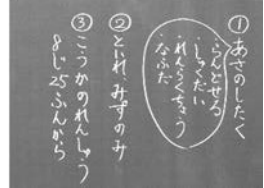


「先生じょうず!」
主体的にできるようリードします。



表示を見て準備

- ・ 登校したら、朝の支度・好きな遊び
- 短い言葉で書きます。



オープンスペースで歌・手遊び・ゲーム



じゃんけんポン



負けたら後ろへ

- 説明は短く分かりやすく。具体的な動作をしてみせることが大切。



「貨物列車シュシュシュ」歌いながら移動、じゃんけん。
○ 担任やそのほかの先生も一緒になって遊びます。

オープンスペース TTで「学年の友達と仲良しになろう!」(音楽)



事例 1-②入学 2 週目「わくわくタイム」の例

安心

新しい友達と交換するが、難しい児童には、最初は知っている友達と交換する練習をしてもよいことを伝える。

「どうぞよろしく」(国語・または生活科 両方の教科の内容に合致)

楽しさ



先生と手が合ったらうれしい!

【1週間過ごして楽しかったことは何ですかやりたいことは】(学活)



「わたしは、〇〇〇〇です。よろしくね。」
「好きな食べものは、・・・」



【互いに自己紹介】
・ 時間をゆったりとり急がせない。
・ 枚数を競わせない。

【一人一人と信頼関係】
集団を見ているが、一人一人も見守る姿勢



- ・ 「休み時間外で遊んだこと」
- ・ 「給食がおいしい」
- ・ 「行ったことがない部屋に行きたい」



やりたいことは?

期待感!
意欲

事例2

第1学年

4月 第1週
入学 5日目

はじめまして がっこう はじめまして ともだち

音楽科・特別活動指導案

単元名	「うたって おどって なかよく なるう」 (音楽) 「きゅうしょくの じゅんぴをしよう」 (学級活動)
本時のねらい	【音楽】 ○知っている歌を楽しく歌ったり、リズムに乗って動いたりして楽しむ。 【学級活動】 ○給食の準備の仕方を知り、みんなで協力して給食の準備をする。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	◎学習活動の時期や時間配分の工夫：1単位時間に、音楽科、学級活動の学習を組み合わせることにより、先生・友達と楽しい時間を共有していくことで学校生活や人に慣れ、楽しさを味わわせる。 【なかよしタイム→チャレンジタイム】 【音楽】 ○幼稚園や保育園の活動で歌った経験のある歌を活用することで安心し、自信をもって積極的に楽しめるようにする。 ○体を動かしながら楽しくリズムに乗ったり歌ったりするという動きの中で、クラスの新しい仲間と仲良く関わることができるようにする。 【学級活動】 ○自分のやるべきことが一人一人に分かるような工夫をしながら丁寧に指導を行い、準備の仕方が徐々に定着して円滑に進められるようにする。

展開例

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 ◆評価
音 楽	1 歌クイズをする。 ・ちゅうりっぷ ・ちょうちょう ・ぞうさん ・こいのぼり ・こぶたぬきつねこ	★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫 ★できるだけ多くの児童が経験してきた歌を選択する。 ★音楽の教科書に歌詞が載っていることを確認し、教科書の開き方も合わせて指導する。 ○知っている曲を発表できたことが自信につながるよう、できるだけ多くの児童の発言を聞く。発表する時の約束について声を掛け、それを守って発言ができた児童を認め、褒める。 ○知っているが、曲名が出てこないときは、一文字ヒントを出す。 ○「さんぽ」も教科書に載っているため、そのページを開き、歌詞を確認する。一斉指導でページが開けない児童には個別支援を行う。
	2 「さんぽ」の歌クイズをする。	
	3 「さんぽ」を歌う。	★着席している時間が長すぎることを防ぐよう、体を動かしながら活動できるようにする。
	4 歌いながら教室の中をさんぽする。	○動いている最中には、机や椅子、他の友達にぶつかることのないよう事前指導する。
	5 曲が終わるまでに自席に戻る。	○思うように動くことができない児童には、個別に声掛けを行う。また、リズムをとることが難しい児童には、体を軽くたたいてあげることでリズムを知らせる。
	6 振り返りと来週の音楽の予告をする。	○来週の音楽での活動について知らせ、次週に期待がもてるようにする。 ◆楽しんで歌ったり動いたりすることができる。 ○音楽の教科書をしまい、気持ちを切り替えさせる。
特 別 活 動 (学 活)	7 給食の準備について話を聞く。 ・一人一人の仕事内容とグループを確認する。	○給食当番やその他の児童一人一人の仕事内容を確認させる。 ・黒板にそれぞれの役割分担表を掲示し、自分が何をすればよいか、何色グループなのかを目でいつでも確認できるようにする。 ・自分の仕事が終わり、着席して待つ間、当番の仕方を観るようさせる。 ・それぞれの活動を始める寸前に、まず全員がトイレ、うがい、手洗いをすることを再度伝える。
	8 机の準備、トイレ、手洗いなど全員がすることを行う。	★自分が何をしたらよいか分からない児童には掲示物を一緒に確認しながら個別指導を行う。
	9 自分の仕事をする。	○当番の児童の様子だけではなく、その他の児童の安全に十分注意して準備を進めるようにする。 ★担任一人だけではなく、補助に入る指導者と役割分担をして、給食当番の児童と、その他の児童をそれぞれ指導する。(IT体制)
	10 給食の配膳を行う。	★熱いスープなどは、必ず教師が扱うようにする。 ★既習経験や能力に個人差があるため、予想量の見本を作るなどして、児童が配膳しやすいようにする。 ◆給食の準備の仕方や自分の担当の仕事が分かり、すすんで準備をすることができる。

〈ポイント〉

安全




- ・音楽遊びのルール
- ・衛生面のルール、けがの防止、T T体制

安心

- ・幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
- ・どの子にも分かりやすく学びやすい環境づくり

楽しさ

- ・歌クイズやリズムに合わせて動く楽しさ
- ・友達や新たな友達と一体となる楽しさ

	安心	楽しさ	安全
リズムに合わせて楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ園の友達がいるからうれしいな。 ・新しい友達もできるよ。 ・この歌知ってる。 ・園で、歌ったことがあるよ。 <p>★児童がこれまで歌ってきた歌で、リズム遊び、歌当てゲームなどを行い、安心感や自信・楽しさを感じさせる。</p> <p>★音楽遊びをする中で、他園から入学してきた友達とも楽しむことで、自然と仲良くなるよう工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすと楽しいね ・曲をよく聞いてみよう。 ・曲の速さが変わったよ。  <p>★同左：「安心」に同じ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・室内は走らない。 ・教室にある机や椅子（障害物）を上手にさけて歩こう。 ・回る向きを守って歩くとぶつからないよ。 ・周りの友達をよく見よう。 <p>★オープンスペースなど、できるだけ安全な場所で行う。</p> <p>★回る方向や順序など（本活動以外も）同じ方向へ動く（ルールを守る）と安全なことに気付かせる。</p>
給食の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・私の名前は何色グループの中にあつたよ。 ・私の仕事は〇〇だね？  <p>★字をたくさん書かず、分かりやすい表にする。教室内に掲示しておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の給食、献立は何かな。 ・おいしそう。早く食べたいな ・お仕事するのは楽しいね。 ・他の当番もしてみたいな。 ・みんなでやると楽しいね。 ・私が当番になったらできるかな。 <p>★グループで食べるなど給食が楽しい時間になるよう方法や教師の言動を工夫する。</p> <p>★食べる量や時間など、個の課題を把握し、指導の工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや手洗いを済ませてから白衣を着るよ。 ・食管はしっかり持ち先生と動かそう。 ・見本をよく見てよそろう。  <p>★手洗いをしているか確認する。</p> <p>★食管の熱さを必ず確認する。</p>

本事例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動

<p>① 健康な心と体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守り、安全に動くことができる。（音） ・安全に給食準備をする。（学） 	<p>② 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事を理解し、責任をもってやり遂げることで自信をもつ。（学） 	<p>③ 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達と声を掛けたり教え合ったりして準備をやり遂げる。（学）
<p>④ 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事をやり遂げることの大切さを知り、準備の約束を理解する。（学） 	<p>⑤ 社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な準備の仕方や配膳の仕方などを知り、自分がみんなの役に立つ喜びを感じる（学） 	<p>⑥ 思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら安全に準備ができるか考え、分かったことを友達に伝える。友達から教えてもらい、自分のやり方をよりよくする。（学）
<p>⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌の歌詞を正しく読み取る。また、自分の名前やグループ名を正しく読み取ることができる。（音・学） 	<p>⑨ 言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の説明をよく聞き、自分が何をするのかを理解する。また、友達と声を掛け合いながら協力し合って学習する。（音・学） 	<p>⑩ 豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じを体や歌で表現する楽しみや喜びを味わう。（音）

※(音)音楽科 (学)学級活動

事例3

第1学年

4月 第2週
入学 9日 目

がっこう だいすき ともだち だいすき

国語科・特別活動 学習指導案

単元名	「おはなし たのしいな」(国語) 「きゅうしょくのじゅんびをしよう」(学級活動)
本時のねらい	○図書室や本に興味をもち、好きな本を選んで読もうとする。 ○給食時の約束や当番の仕事の仕方を思い出しながら、みんなで協力して給食の準備をする。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	◎行事の多い時期、4校時になると疲労や集中度・意欲の減退が見られる。また、給食にかかる時間も長い。児童の体調や給食の仕方の習慣化を考慮し展開を工夫した。 ○学習活動の時間配分の工夫：1単位時間に国語科・特別活動の2活動を行う。(4校時【わくわくタイム→チャレンジタイム】) 【国語】 ○この学習の前に「としよしつ たんけん」(生活科)を実施し、本時への学習意欲につなげていく。本時は実際に図書室の使い方にならない、ルールを守りながら自分の好きな本を選んで楽しく読むことで、図書室や読書に親しませる。 ○図書室での約束を絵カードで表示する。 【特別活動】 ○園でも経験してきたうがい・手洗いなどを衛生に気を付けて行い、すすんで実践する姿を励ましていく。初めて経験する給食当番活動などについては、(弁当の園もあり)児童の経験差が大きいので時間を掛けて取り組ませ、徐々に定着・習慣化していく。

展開例

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 ◆評価 ★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫
国語	1 図書室が舞台の絵本「としよかんライオン」の読み聞かせを聞く。 「図書室、この間行ったね。」 「早く行って本が読みたいな。」	★先週行った「としよしつ たんけん」で、図書室へ行ったことを思い出させ、図書室に行きたいという意欲を引き出させる。 ★児童が聞きやすい場の設定をする。(オープンスペース・教師の周りに集合など) ◆図書室や本への興味が高まる。
	2 図書室に行く。	○静かに廊下を移動できるよう促す。
	3 図書室の約束をみんなで確認する。 ① 本を大切にしよう。 ② 静かに読もう。 ③ 本はもとの位置に戻そう。	★図書室の約束を視覚的に訴える絵カードを使って、みんなで確認をさせる。 ○図書室を回り、どこにどんな本があるか気付かせる。絵本のコーナー、図鑑のコーナーなど、児童が興味を示しそうな場所を案内したり紹介したりする。
	4 図書室の本を読む。 好きな本を選び自由に読書する。	★一人一人が好きな本を選ぶことができるよう、司書と相談して、絵が分かりやすく1年生におすすめの本を選んでおく。 ★司書と選んだ本を、表紙が見えるように本棚の上に立て掛けておく。 ○本が選べない児童には助言したり一緒に選んだりする。 ◆好きな本を選んで読める。
	5 振り返りをする。	★振り返りの工夫…具体的なポイントを示し、それに沿って考えさせる。 ① 図書室の約束は守れましたか。 ② 好きな本(どんな本)を選んで読めましたか。 ★話すときの約束を意識させた上で児童に発表をさせる。 ◆図書室の使い方や約束が分かり、好きな本を選んで読もうとする。
特別活動(学活)	6 給食の準備をしよう。 ・給食当番の役割を知る。 ・その他の児童の役割を知る。 ① 机を班の形にする。 ② トイレ・うがい・手洗いをする。 ③ 自分の席で当番のやることを見ていく。	○子供たちの仕事内容を確認させる。 ○給食の準備の際には、「トイレ・うがい・手洗い」の前に「机を班の形にする」ことが衛生的であることを考えさせ確認する。 ★昨日の仕事を思い出させながら、仕事をするように促す。 ★自席にいる児童には、配られた食べ物を正しく配膳させたり、次に自分の役割となる当番の仕事の様子を観るよう声掛けをする。 ◆給食準備のルールや昨日の自分の仕事を思い出しながら、準備ができる。

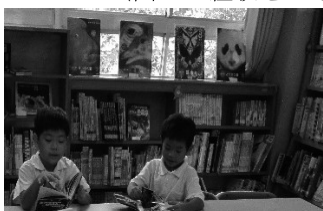
〈ポイント〉

安全
安心
楽しさ

- ・給食時間のルール 衛生面のルール
- ・けがの防止、TT 体制や上学年の協力
- ・幼児期や図書室探検の経験から安心感や意欲
- ・どの子にも分かりやすく学びやすい環境づくり
- ・たくさんの本を見たり、選んだりする楽しさ
- ・好きな場所で友達と読む楽しさ

安心

- ★絵本コーナーでの自由読み
- ★座卓やマットの場の設定
(園での経験をつなぐ)



★1年生に興味・関心がありそうな本を掲示する。

園でもこの本見たよ!

★伝えたいことを絵カードで提示する。

- ・常掲することで習慣化させる。
- ・文字を多く書かず、絵などを活用する。(50音を習得していない児童に配慮)



楽しさ

- ★広い図書室を自由に回って好きな本を選んだり、テーブルやマットの場で友達と本を読んだりする。(園での経験をつなぐ)



安全

- ★TT や上学年が給食準備・片付けの補助をする。



こうやってごらん



これどうするの

本事例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動例

① 健康な心と体

- ・うがい・手洗いをしてから配膳したり楽しく食事をしたりする。(学)
- ・熱めの食缶の時は教師に伝える。(学)
- ・見通しをもって食べ終える。(学)

② 自立心

- ・自分の好きな本を選んで読もうとする。(国)
- ・当番の仕事ややるべきことを最後までやる。(学)

③ 協同性

- ・グループの友達と仲良く協力して給食当番の仕事をする。(学)

④ 道徳性・規範意識の芽生え

- ・図書室の使い方や、本を読むとき・戻すときの約束を守る。(国)

⑤ 社会生活との関わり

- ・図書館司書との約束を確認し、しっかりと守る。(国)

⑥ 思考力の芽生え

- ・本の並び方を理解し、元の場所に正しく戻す。(国)
- ・昨日やった方法や手順を思い返し、今日もっと上手にできるよう工夫して行う。(学)

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・絵カードを見て、図書館の約束を守るように当番表を見て活動する。(学)

⑨ 言葉による伝え合い

- ・振り返りでは、自分の活動の様子を話したり、友達の振り返りをよく聞く。(国)

※(生)生活科 (学)学級活動
(国)国語科 (算)算数科

事例4

第1学年


5月第8週
入 学 35日目

がっこう だいすき ともだち だいすき ベんきょう だいすき

国語科学習指導案

単元名	「くまさんとありさんのごあいさつ」（物語）※令和元年度使用教科書の単元 「ねことねっこ」（促音）
本時のねらい	○「くまさんとありさんのごあいさつ」を音読することができる。 ○促音の読み方と、書き方を理解する。 ○連絡帳に、字が正しく書ける。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	◎小学校に入学してから20～30日経過すると生活リズムに慣れてくるが、同時に疲れも出てくる頃である。特に、5月の連休明けから運動会に向けての活動が増えている。疲れ気味の運動会練習後の4校時や給食後の5校時などは、姿勢が崩れたり集中力を欠いたりする児童の姿が少なくない。そこで45分の授業を2つの活動に分け楽しんで学べるよう多様な授業展開を行う。 【チャレンジタイム】 ○児童が主体的に楽しく学びに向かえる工夫をする。 ○個々の児童に対してノートに丸を付けたり、認めたりすることで意欲の継続を図る。 ○支援を必要とする児童の学習状況を絶えず把握し、的確な声掛けを行い、自信や達成感をもたせる。 ・話をしている人や対象（黒板の絵・文字など）をしっかりと見る。 ・話す時の約束を意識させる。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 ◆評価 ★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫
1 教科書「くまさんとありさんのごあいさつ」三人組で音読の練習後、前に出て発表する。 友達の発表のよいところを見つけようとする。 「とっても大きな声が出ている」 「ゆっくりと読んでいる」 「声の大きさをかえている」	○全体の前で発表させる前に、少人数で練習させ自信をもたせる。 ★友達の音読をしっかりと聞いて、上手だと思うところを発表させる。 ★児童のよい例などを認めながら、上手な読み方の具体的な視点に気付かせる。 ◆積極的に音読しようとしている。 ◆友達の音読のよいところを見つけ発表しようとする。
2 「ねこ、ねっこ」などの促音の読み方を学習する。  「わあ、何が出てくるのかな」 「おもしろい！」 「ちいさい つ が入っている」 「似ているけどちがう言葉になる」	★視覚に訴える楽しい教材（「へんしんBOX」）を工夫したり、「ねこ」「ねっこ」などの絵を提示したりして、促音への興味を促す。 ○「ねっこ」などの拍数を手をたたかせ理解させる。 ◆促音の読み方が拍をとりながら分かる。 ★黒板の絵や文字を見て、読み方が分かる。 ★発表している人の方を見る。 ★教師が促音の読み方の手本を示したり、みんなで声に出して読んだりすることを繰り返すことで、楽しく促音の入っている言葉を聞き分けることができる。
3 「ねこ、ねっこ」などの促音の書き方を学習する。	○ノートに「ねこ」「ねっこ」などを書かせる。 ○促音が、ノートのマス目のどこに入るか、注意して見させる。 ◆促音の書き方が分かり、ノートに書ける。
4 本時の学習の振り返りをする。	★振り返り際のポイントを具体的に示すことで、どんなことを考えたらいかが分かるようにする。 ★話すときの約束を意識させて発表させる。
5 連絡帳に書き、担任の話を聞く。 ・板書の文字を正しく書き写す。 ・担任から保護者に伝えたいこと（伝言）を聞く。	○毎日の習慣として、板書したことを連絡帳に正しく書かせ、時間割、宿題、連絡などの確認を行う。 ★黒板の文字をしっかりと見させる。 ★担任の言ったことを家の人に正しく伝えられるよう、話す速さや大きさに配慮して伝える。

〈ポイント〉

安心

- ・ 幼児期の遊びや活動を授業に取り入れる(具体物や視覚的なもの)
- ・ ペアやグループでの学習など、自己を表出しやすい工夫

楽しさ

- ・ 小道具を使ったり、ゲーム性のある活動、手遊び
- ・ 身体を動かす活動・リズムに乗る、模倣遊び

成長

- ・ 気付き、興味・関心、主体的に学ぼうとする意欲、達成感

国語科の後に「手遊びをしよう」 (5月中旬4校時)

楽しさ・安心 ↔ 成長

〈単元〉 「ねことねっこ」・促音の入った童歌を歌おう

〈ねらい〉 ①促音の読み方と、書き方を理解する。
②促音の入った歌に親しもう

〈学習活動〉 ○音読
○促音「っ」の読み方と書き方
○手遊びをする

〈指導のポイント〉

- 児童の集中力を考慮し、国語と学級活動を組み合わせる。(本時の学習内容と関連した活動をする。音楽科とすることも可能)
- 促音「っ」を学習した後、幼児教育で経験してきた「手遊び歌」(ずいずいずっころばし)をすることで、促音に親しみ、楽しく学習をまとめられるようにする。
- 身体を動かして手遊び歌を行うことで、集中力と意欲を高める。
- 2人組のペアで話したり聞いたり伝え合ったりすることで、まだ自己を表出することが難しい児童も、恥ずかしがらず主体的・意欲的に学習ができる。



みんなで「ずいずいずっころばし」の歌詞を群読する



歌を歌いながら手遊びをする

国語科の中で「鳴き声や動作をまねて体で表現しよう」 (5月下旬4校時)

楽しさ・安心 ↔ 成長

〈単元〉 ひらがな「す」の練習・「がぎぐげご」のうた
〈ねらい〉 ①ひらがな「す」の書き方がわかり、丁寧にかける。
②場面の様子を思いうかべながら、リズムよく音読する。

〈学習活動〉 ○ひらがな「す」の書き方、使い方
○「がぎぐげごのうた」の音読
○鳴き声や動作を工夫して読む ○歌を歌う

〈指導のポイント〉

- 児童の集中力を考慮し、国語科の展開に身体表現を取り入れる。
- ひらがなの練習は、形を整えて書くためのポイントを板書で示し、よく見させ「1.2.3・・・」と一緒に唱えさせる。運筆はゆっくりと書かせ、形よく書いている箇所を丸を付けて励ます。
- 音読は口形に気を付けさせ、列ごと、班ごと、好きなところを立てて読むなど、様々な形態で楽しく読ませる。繰り返し読むことで、話すことの基礎を培うようにする。
- 「がぎぐげご」の歌に出てくる動物の動作や鳴き声を工夫させ、よいものは取り上げ、全員でやってみる。
- 幼児期に慣れ親しんだ動物の模倣をさせることで、楽しく取り組める活動として、集中力や意欲を持続させる。



「ばびぶべ ばびぶべ ばびぶべほ
かみのけ ほさほさ ほさほ



指導のポイント

○動作化やゲーム化などの動的な活動の工夫をする

- ・ 5月になると急に暑い日が多くなります。運動をしつかりすると4・5時間目は、疲れたり眠くなったりする児童もいます。座学だけでなく、動的な活動を計画することや興味・関心が高く学習意欲の継続が図れるような活動を計画しましょう。※3月まで午後の午睡(13時~15時の園が多い)をしていた児童もいます。

○児童との信頼関係を築き児童一人一人に安心感や満足感をもたせる

- ・ 「見る、聞く・話す」ことなどのほか、「書くこと・読むこと」なども個人差は大きい傾向があります。個々の習熟の実態を把握し、個に応じた指導を工夫しましょう。(一人一人に向き合う、課題ができたなら様々な方法で認めるなど。)

事例5

第1学年

5月第8週
入学37日目

がっこうだいすき ともだちだいすき べんきょうだいすき

体育科 学習指導案

単元名	「にんじゃしゅぎょうをしよう」 (B 器械・器具を使つての運動遊び)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○固定器具やマット、平均台の安全な運び方や使い方の決まりを知る。 ○忍者になりきつて、上り下りやぶら下がり、渡り歩きや跳び下りなどを工夫して運動する楽しさを味わう。 ○友達と協力したり順番を守ったりして仲よく活動する。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◎幼児期の経験を小学校の学習につなぐため、幼児期からの学びと育ちを生かした活動を設定した。【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○「たいいくかん たんけん」で見つてきたマットや跳び箱を使つての運動遊びを初めて行う。全員が共通の忍者のイメージをつかむために、国語の時間に忍者に関する絵本の読み聞かせを行う。 ○幼児期に親しんだ「忍者修行」(マットや巧技台を使用)を取り入れることで器械・器具を使つた運動遊びを意欲的に行い、楽しさを味わえるようにする。 ○機械・器具を使つた運動遊びは園によって経験の差があるので、準備や片付けの仕方や安全に関するルールなどについて共通理解を図っていく。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 ◆評価 ★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫
1 忍者修行のための準備運動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○脚、足首、肩、首などをのぼしたりほぐしたりする。 ★忍者になったつもりで声を掛け、忍者修行への気持ちを高めていく。 ★事前の読み聞かせで知つた忍者の技の動作をしながらイメージをふくらませ親しみやすくする。
2 マットや跳び箱の運び方の約束を知り、場の準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○4人グループになり、協力し合つて、マット、跳び箱、平均台の準備をさせる。 ★全員に丁寧に説明した後、T1がやってみせる。焦らせず、4人で協力して運ばせる。
3 忍者修行にいこう ○全員で全ての修行を体験する。 ・運動遊びを行うときのきまりを知る。 「○○さんは、忍者転がりが上手だな。まねしたい。」 「一本橋から落ちないようにがんばろう。」	<ul style="list-style-type: none"> ◆正しくマットや跳び箱などを運ぶことができている。 修行①肋木 ◎タッチされたら次の人がスタート。 ・両手でしっかりと握り、登れるところまで登つて3秒位ぶら下がり跳び下りないで正確に足をかけて下りる。T2が付く。 修行②マット ◎前の人がマットから下りたら次の人がスタート。 ・忍者転がり(えんぴつ転がり)を行う。 修行③跳び箱 ◎前の人がマットから下りたら次の人がスタート。 ・2段と3段を使用する。跳び箱に飛び乗り、忍者のように静かにひらりとマットに着地し、忍者ポーズを決める。 ・「とん、ふわっ、ぴた」などのオノマトペを用いた指導を行う。 修行④平均台 ◎前の人が平均台から下りたら、次の人がスタート。 ・「橋の下は深い川、ワニがいるよ」などのイメージをもたせ、楽しく運動させる。 ・走らず落ちないようにバランスをとる工夫をさせる。
○自分の好きな順序で忍者修行に取り組む。 「だんだん忍者転がりがうまくなってきたよ。」	<ul style="list-style-type: none"> ◆ルールを守り、上り下りやぶら下がり、渡り歩きや跳び下りなどを工夫して行い、楽しんで取り組んでいる。 ○苦手な児童には適宜教師が補助に入り、前向きな言葉で励ます。 ★忍者になり切つて、思い切り運動している児童を個々に賞賛する。 ★同じ修行に集まつてきたグループで「エイエイオー」の掛け声を行い、忍者修行への気持ちを高める。 ◆順番を守り、友達と仲よく協力し合つて活動している。
4 振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○「約束を守つて運べたか」「楽しくできたか」「仲良くできたか」の3つのポイントを伝え、振り返らせる。 ★苦手な児童が徐々にできてきたことなども賞賛し、全員が「楽しかった」という思いをもって終われるようにする。
5 場の片付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ★授業の始めに伝えた約束を確認してから、グループで協力して片付ける。 ★安全に行えるよう、T2と役割分担して指導に当たる。

〈ポイント〉

安全

- ・ 器械・器具の使い方や扱い方、ルール（知識）、TT 体制

楽しさ

- ・ 幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
- ・ 模倣(忍者のイメージ)や器械・器具を使った運動遊びの楽しさ
- ・ 友達と運動する楽しさ、工夫して行う楽しさ

成長

- ・ 共通の目的意識・協同性、気づき、学ぶ意欲、達成感

楽しさ

運動遊びへの意欲をもたせる工夫

- ★オノマトペを用いた言葉掛けを行う。「とん、ふわっ、ぴた」マットをさわって「どろん」など。
- ★イメージがわくような言葉掛けを行う。
- ★修行の看板に、文字の他、絵や色を付ける。



橋から落ちるとワニがいるよ。

忍者転がりは音を立てずにすばやくね。

成長

友達と協力し合い関わり合いをもたせる工夫

- ★同じ場に集まってきた仲間と「エイエイオー」の掛け声を行う。
- ★修行を見合い、成功したときに拍手を送る。
- ★運動のコツなどを教え合う。
- ★準備、片付けはグループで協力させる。



1, 2, 3・・・成功!

★みんなで声を合わせて数える。

安全

場の準備の工夫

- ★児童が準備：軽いマットを運ぶ（幼児期に経験している児童が多いため）、跳び箱の上2段を積み上げる。
- ★教員が準備するもの：跳び箱の下2段（上2段は児童が運びやすい位置に準備しておく。）、平均台（2台の間隔を十分とる。）

器械・器具の扱い方やルール、安全面への配慮の工夫

- ★指導者がやってみせる。
- ★児童が待機する場所には、ビニールテープでラインを引くなどして示し、運動する場所と次に待つ場所との間隔を空けるよう習慣付けていく。
- ★肋木は教員（T2）がつくようにする。
- ★準備、片付けや特に安全面での指導が必要な運動には、複数の教員で分担・協働する。（TT体制）



次の人はリングの中で待ちましょう。

★児童の立つ位置をリングで示す。

本児例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動例

① 健康な心と体

- ・ ルールを守り、時間内にすべての修行を安全に行おうとする。

② 自立心

- ・ 工夫しながら進んで修行を楽しむ中で、やり遂げた達成感を味わい自信をもつ。

③ 協同性

- ・ グループの友達と共通の目的をもち、工夫したり協力したりして修行をやり遂げる。

④ 道徳性・規範意識の芽生え

- ・ 運動の仕方を正しく行ったり順番を守ったりしながら運動する。

⑤ 社会生活との関わり

- ・ 他のグループや先生の示範を取り入れて自分のグループに活用し、友達に教え合い技を成功させる。

⑥ 思考力の芽生え

- ・ 器械・器具の準備や片付け、修行の仕方などがうまくできるような工夫し、友達の異なるやり方を見聞きして、自分のやり方をよりよくする。

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・ 忍者の修行名立札を見分けて移動したり、肋木にぶら下がって数を数えたりする。

⑨ 言葉による伝え合い

- ・ 先生の説明をよく聞き、分からないことは質問する。また準備や片付け、修行の仕方や、友達が肋木にぶら下がっている時間を数えて知らせるなど、友達と協力し合う。

⑩ 豊かな感性と表現

- ・ 器械・器具などを、山や川、崖に見立て、忍者になったイメージをもって表現しながら運動遊びを楽しむ。

事例6

第1学年

6月第12週
入学54日目

げんき いっぱい うんどう だいすき

体育科学習指導案

単元名	「めがせ みずあそび めいじん」(D 水遊び)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○水につかって歩いたり走ったりすることができる。 ○友達と仲良く遊んだりバディをしたりすることができる。 ○準備運動や整理運動をしっかり行う、丁寧にシャワーを浴びる、プールサイドは走らない、プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びの心得を守ろうとしている。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◎幼児期の経験を小学校の学習につなぐため、幼児期からの学びと育ちを生かした活動を設定した。【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○国語の時間に水遊びに関する絵本の読み聞かせを行う。また、道徳の学習を通して、自分の目標に向かって一生懸命努力する意欲と期待を高める。 ○第1時は、「プール開き」があり入水時間を短時間にした。健康観察カードの扱いや着替え、移動、プールサイドでの並び方やバディの仕方、シャワーの浴び方、プールへの入り方など、水遊びの学習に必要な様々な活動の仕方やルールなどを丁寧に学ばせた。また、低水位で、階段からプールに入り幼児期に経験してきた「動物まねっこ」などをし、安全・安心で楽しくできる水遊びのイメージをもたせるようにした。柔軟な時間設定(90分間)にした。 ○水遊びは園によって経験の差が大きいため、最初は低水位にすることや、準備や片付けの仕方や安全に関するルール、水遊びの心得などについて共通理解を図っていく。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 ◆評価 ★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫
1 水着への着替え方を知り、着替えた児童からバディで並ぶ。 (オープン・教室)	<ul style="list-style-type: none"> ○順を追って着替える方法を説明し、並ぶときに必要な物(帽子・ゴーグル・タオル・洗濯ばさみ)を指導する。 ★児童に分かりやすいようにイラストで示し、黒板に貼っておく。 ★バディのペアは、体育の学習で整列したときのペアを活用する。
2 挨拶・水遊びの約束や心得を確認する。(オープン)	<ul style="list-style-type: none"> ○プールサイドや水の中、入水の方法などの約束を確認する。実際に笛の合図で練習してみる。 ★分かりやすいようにイラストと文字で示す。
3 プールに移動し、集合・バディで人数の確認を行う。「〇君いるね」	<ul style="list-style-type: none"> ○バディで命の確認をすることを児童にも伝える。 ★水に恐怖心がある児童も安心して入水することができるように低水位にしておく。
4 準備運動を行う。シャワーを浴びる。「シャワー冷たくてできないよ」	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の学習で使用している曲を使いながら準備運動を行い、楽しく学べる雰囲気作りをする。 ★シャワーの浴び方を指導し、嫌がる子にはバケツにくんだ水をかけたりシャワートンネルを作ったりするなどの工夫をして対応する。
5 水と友達タイム プール探検をする。 リズム水遊びや、水に慣れる遊びをする。 ・おじぞうさん ・じゃんけん列車 「自分の体と相談タイム」をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ★プールの階段を使ってプールに入り、プールの壁に捕まりながら1周(プール探検)をし、プールの深さや形状を覚えさせる。教師のまねをさせながら、リズム水遊びを行わせる。苦手な児童には教師が補助に入る。 ○易しい水慣れからはじめ、恐怖心が無くなるようにする。 ★ある程度経ったら全員をプールサイドに上げ、自分の体の調子を確認めさせる。「自分の体と相談タイム」とし、体調を意識する習慣付けをする。観察や自ら訴えさせ、せきや悪寒のする子などは中止する。 ★水に顔をつけることが苦手な児童には、無理にさせない。水慣れしたところで徐々に顎→口→鼻→目へと水につける部分を増やすようにする。 ◆プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びのルールを守ろうとしている。
6 ペアでウキウキタイム ペアで水遊びをする。 ・じゃんけんぐりこ ・じゃんけん王様	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と仲良く活動することの大切さを伝え、ペアで楽しく活動できるようにする。 ★陸上でもやったことがある遊びを取り入れることで、安心感を持って水遊びができるようにする。 安全面の指導をする。 ◆水につかって歩いたり走ったりすることができる。 ◆友達と仲良く協力し合って水遊びやバディができる。
7 整理運動をする。 ・バディで人数確認	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を用いて整理運動を行い、使った部位をほぐす。
8 振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく水遊びできたか、友達と一緒に楽しめたか、水遊びの心得を守れたか、の三観点で振り返りを行う。
9 シャワー・挨拶。	<ul style="list-style-type: none"> ○シャワーのあとはしっかり水を拭くこと、うがいをすることを指導する。



〈ポイント〉

安全・安心

・水遊びの心得、ルール（知識）、T T体制（安全管理も）

楽しさ

・幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
・リズムを用いて楽しい雰囲気作り

成長

・共通の目的意識・協同性、気付き、学ぶ意欲、達成感

自立

・幼児期の学び・生活・精神の自立につながる活動

楽しさ・安全・安心

★実態調査を行い、個に応じた指導計画を立てる。

（疾病のある子のほか、特に水に恐怖心のある子、冷たさに弱い子、水に顔をつけられない子の実態を把握しておく）

・「水慣れ」できるまで細心の配慮が必要である。

★最初の1・2回（実態による）は、低水位（両手を水底につけてワニ歩きが可能なくらい）の深さにして、未経験の児童にも安心・安全に楽しめるようにする。水慣れの時間を十分に確保する。

★学校体制で行うプール水の管理や、T T授業

例

- 水位の管理や、気温が上がった4校時前後に1学年が使うなど全校で協働する。
- 様々な配慮の必要な児童に、できる限り対応できるように、増員等T T体制の充実を図る。

★水遊びのルールやマナーを身に付けさせよう

・水遊びの心得、準備・整理運動、衛生面（P112参照）

★「ぶうるたんけん」を行う。プールの壁に捕まりながらプールを1周する。プールの両端は浅く、真ん中が深いことを知る。（同じ深さもあり）

★自分の体調を意識（管理）する芽を育てる。

- 1 家庭で健康観察カードに書くとき
- 2 学校で、プールに入る前にも体調を意識する（担任と相談）「家庭で○をつけてきても、直前の体調で入らない方がよいこともあることを知っていく。（P111参照）
- 3 「自分の体と相談タイム」：入水して最初の休憩時（一連の水慣れの後）水から上がり、静かに「体と相談」「先生、熱っぽいからやめたい。」「どれどれ、じゃあ〜」

★幼児期から行ってきた遊びを取り入れる。友達と心ゆくまで遊ぶ楽しさを味わう。

★バディを組み、命の確認をしたり、ペアで学習したりする。

（仲良く安心できるペアリングの工夫）

★決まった動作を習慣化：

「オノマトペ」や笛での合図

- ・「1, 2, 3, バタ足」
- ・「ピ〜ピ〜」「ピ〜」他話を聞く、上がるとき

〈参考〉P36 参照
保育所等でも安全のための策を細かく決めて実施しています。



成長

安心して生活し自力を
発揮できるようになる

★幼児期の経験をつなぐことで、自信や意欲をもって活動できるようにする。

★友達や教師に認められることで自己肯定感を高める。

- ・友達と力を合わせてできるよくなるかな。
- ・一人でやってみたいな



自立

一人で行動できるようになる

★自分で考え判断し行動できるようになる

「先生に言われなくても自分から進んでやれるようになったよ。」

「○○がうまくなったから、今度は◇◇にチャレンジするぞ。」

「プールまで履いてきた靴は、きちんと並べるんだよ。」



★体調面・衛生面の確認を自分でもできるようになる。

○プールサイドで最初の休憩。静かに「自分の体と相談タイム」

- ・プールの中の確認（不調児童はいないか）
- ・プールサイドの児童の様子を観察・・・自分から不調を伝えに来る児童をまず認める。

「自分の体のこと、よく言えたね」「熱はないね」
・水が苦手の不調を訴えてくる児童には、T T体制で少人数指導へ。「シャワーの所でやってみようか」

★学校で学んだことを実生活で生かす

「お風呂のシャワーの水を、高い所からかけて頭から洗ってみよう。」
「海に行ったらお兄ちゃんとバディしよう。」



着替えをする時の配慮



- 右のような絵カードを使って着替え方について事前に説明しておきましょう。
- 着替えが済んだら、その場に忘れていた物はないか振り返る(点検する)習慣付けをしましょう。(オノマトペ等での声掛けもよい)
- 教室(机)に置いていく物(脱いだ物など)、プールに持って行く物(タオルやゴーグルなど)を指さし点検するようにしましょう。
- ◎片付け、整理・整頓、指差し点検などは、日常生活に役立つ「習慣形成の基礎」です。

〈みずぎの きがえかた〉

「自分の体は 自分で守る」意識づくりの第一歩

○園でやってきたこと

- ・衛生面
 - 家で：爪切り、長い髪を結ぶ、健康カード(体調：主に保護者)
 - 園で：トイレ(おしりの拭き方)・鼻かみ・手洗い・うがい、たらいで腰洗い、ホースのシャワー
- ・体調面 園で：自分から保育者に体調を伝える

○1年生から：健康・安全・防災教育

- ・自分の健康の大切さを認識
- ・健康で豊かな生活を営む態度の育成

- ・自分の健康(体調)に関心をもつ
- ・自分の健康の保持増進や回復のために主体的・協働的に活動する態度

- 1 家で保護者と一緒に：健康カードで体調確認
- 2 学校で担任と一緒に：健康カードで(水遊び前に)
- 3 水遊び開始後(運動中)
- 4 水遊び終了後(運動後)

意識をもたせる【けんこう かあど】

台東区立〇〇小学校 けんこうカード

保護者 氏名 _____ 住所 _____ 電話番号 _____ 緊急連絡先 _____

年 級 _____ 年 齢 _____ 性 別 _____

(授業用 6~7月・9月)

月 日	朝の検温	咳	痰	その他(保のようす)	園子でチェック		入浴後の自己チェック	担任印	学校より(備考欄)
					入れる	入れない			

保護者と相談しながら付けましょう

家庭での判断が「×」(不可)である場合は、本人の自己チェックが○となっても×。見学の際に課題を持たせる。「友達のがんばっているところを見付けよう」

「先生、鼻水が止まりません！」(プール前の自己チェック×)→担任や養護教諭と相談→「× 今日はやめておこうね。」

◎学年の実態からカード記入が難しい場合は、プール前に口頭でチェック(確認)

意欲がもてる1年生独自の

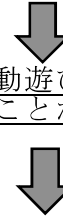
水遊びスタート時「進級カード」を!

◎「もぐる・浮く」前の項目を細かに

能力段階は、できるだけ細かい進級項目をつくりましょう。
 苦手な児童が、できた喜びから次への学びに向かう力が発揮できるように、細心の配慮をします。
 (その年度の児童の実態によって項目は柔軟に)

低学年の「水遊び」の内容

- ① 水に対する不安感を取り除く簡単な遊びを工夫すること。
- ② 水の中での運動遊びの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすること。
- ③ 水にもぐることや浮くこと、息を止めたり吐いたりすることの技能を身に付けていくこと。



(学習指導要領解説「体育編」教科の目標及び内容より)

○事前に実態調査をして、個々の児童の経験を把握しておきましょう。(幼児時代にプールなどの施設や備品がなく水中での運動遊びや体に水のかかる経験が十分でない子もいます。)

○小学校に入学して初めての大きなプールでの水遊びです。児童が安心・安全に楽しめるよう、まずは「プール探検」をしてプールの形状などを知りましょう。

- ・「学校のプールは大きいな」
- ・「プールの底が深くなってきたよ!」

○そして、水の苦手な子に視点を当てて、「安心・安全・楽しさ」を目指したゆったりとした活動計画を立てましょう。

※できる子には、浅い水位のプールでも楽しめる水遊びを指導者が工夫します。
 例:「ワニあるき」をしているとき、顔を水に付けられる子は付けるよう指示する。
 (小学校学習指導要領解説「体育編」より)

めざせ!みずあそび めいじん!がくしゅう かあど(例)

1ねん くみ

できたら○にいろをぬりましょう!

みずと ともだちたいむ

りずみみずあそび	みずいれきょうそう	てつなぎおに	じぞうおに	どうぶつまねっこ	ねことねずみ

べあで うきうきたいむ

じゃけんぐりに	でんしゃでー	おひげにぼちゃん	とんねるくり	すいちゆうたしー	すいちゆうろけつ	ぶかぶかあそび

ぐるうぶ わくわくたいむ

たからさがし	ろんどんはし	とんねるくり	めりーごーらんど	いかだながし	ぶかぶかうきあそび

こんなふうにやってみたよ。

(きょうの がくしゅうを ふりかえろう) 😊よくできた 😊ふつう 😞できなかった

たのしくできた	なかよくできた	あんびんできた	たのしくできた	なかよくできた	あんびんできた
😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊
😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊
😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊
😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😊😊😊😊

みずあそび「できるかな」かあど(項目の例)

- 1 シャワーに足・手・腕・頭や胴体が当てられる
- 2 シャワーで手を使って頭から足まで洗える
- 3 プールサイドで友達とすぐバディができる
- 4 プールの壁につかまって、プールを1周できる
- 5 友達と水をかけ合うことができる。
- 6 手でかきながら水の中を歩ける
- 7 水の中で、相手を探してバディができる
- 8 水中を5m歩くことができる(プール横も可)
- 9 水中を5m走ることができる
- 10 水面に顔を付けることができる
- 11 水の中に頭までもぐれる

ここまでできれば
あとは安心!

水が苦手な児童に安全・安心を

- ・個別指導が必要不可欠
- ・ゆっくりていねいに指導

冷たいよ。寒い!
 顔にかかると怖い!
 水に押し潰される感じ(圧迫感)

シャワーを使った水慣れと衛生習慣作り



一緒に行こうね

・始めは心臓から遠い腕や脚からシャワー遊び

キャップを取って肩とか胸に挟んだら、両手を使って体を洗おうね!

事例7

第1学年

7月第15週
入学65日目

たのしみだね なつやすみ

生活科学習指導案

単元名	「なつやすみを たのしく すごそう」
本時のねらい	夏休みにしてみたいことやがんばりたいことを話し合い、夏休みの計画を立てることができるようにする。
スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導計画や指導の工夫	<p>◎幼児期や小学校入学後に経験してきた夏の遊びや活動を基に、自分で夏休みの計画を立てる活動を設定する。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】</p> <p>○幼児期には、夏休みを経験した児童とそうでない児童がいる。小学校に入学後、初めての夏休みを迎える。夏休みのイメージを共有し、基本的な生活習慣を維持しつつ、安全に楽しく見通しをもって夏休みを過ごせるようにする。</p> <p>【生活科】</p> <p>○生活科「なつがやってきた」で学習したこれまでの活動や幼児期の夏の体験を振り返り、夏遊びの楽しさを思い出せるようにして夏休みへの期待感を高める。</p> <p>○保護者には保護者会等で予め本時のねらいや生活表を提示しておき、児童が自分で決める際の参考になるよう家庭で事前に話題にってもらうことを依頼する。</p>

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	<p>○指導上の留意点 ◆評価</p> <p>★スタートカリキュラムの考え方を取り入れた指導の工夫</p>
<p>1 今までの活動や幼児期の夏の遊びを振り返り夏遊びの楽しさを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉、砂場で山や川作り、公園で虫探し ・海、色水作り、泥団子作り、花火 <p>2 夏休みにどんな行事や楽しみがあるのか話し合いながら期待感を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みのプール、ラジオ体操、盆踊り 	<p>○教科書の内容を見返す。</p> <p>○今までの活動を記録した映像を提示し、夏遊びのどんなことが楽しかったのか話し合えるようにする。</p> <p>★幼児期に経験した夏の遊びや行事を想起させる。(夏休みがない保育施設も多いので、「夏休み」の言葉で限定しない配慮をする。)</p> <p>★1・2ともに、思い出したり考えたりできない児童には教科書に載っている夏の写真やイラストを見る(視覚に訴える)よう促し、夏の遊びや活動のイメージをもてるようにする。</p> <p>◆小学校に入学して初めての夏休みについて、これまでの夏の遊びや活動から具体的なイメージをもち期待感を高める。</p>

なつやすみに やってみたいことを かんがえよう。

<p>3 夏休みにやってみたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海で泳ぎたい、山に登りたい、花火をしたい ・本を20冊読む、山の虫を調べる、プールの横幅を泳げるようにする。 	<p>★生活表を見せ、夏休みが長期であることを感じ取らせる。小学校入学後初めての長期休暇を見通しをもって過ごせるように、ワークシートに「やってみたいこと」と「毎日頑張りたいこと」という観点を示し、今から行う活動の見通しをもたせる。</p> <p>★夏休みが「楽しみ」と感じられるよう、「やってみたいこと」(楽しむことや目標をもってチャレンジすることも含める)を自由に考えたり話し合わせたりする。(実現の可否は問わない。家庭の事情などについて配慮する。)</p>
---	--

まいにち がんばりたいことを かんがえよう。

<p>4 一日の生活を具体的にイメージし、生活リズムについて話し合う。</p> <p>○夏休みにやることを知る。</p> <p>○「一日の生活」の仕方や気を付けたいことを知り、毎日頑張りたいことを考える。</p> <p>「せいかつのめあて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の世話や観察 ・早寝早起き ・毎日30分運動する ・時間を決めて勉強する <p>「おてつだい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂掃除 ・新聞取り ・食器片付け ・洗濯物をたたむ <p>5 まとめ 振り返り、次にやることを知らせる。</p>	<p>○水泳教室、学習教室など、また、朝顔の世話や夏休みの宿題(ワーク、生活表、自由研究など)をあらかじめ示し、頑張る内容に含めて考えられるようにする</p> <p>★①学校や担任が決めて課すこと②児童が主体的に考えて決めたり選択したりする内容を分けて説明する。</p> <p>①水泳教室・学習教室、朝顔の世話、夏休みの宿題、毎日頑張ること(せいかつのめあて、おてつだい)を決めて頑張ること。</p> <p>②毎日頑張りたいこと:「せいかつのめあて」「おてつだい」の内容</p> <p>★1日の生活(起床から就寝まで)の絵図を示し、起床してから就寝までにすること等をイメージできるようにする。</p> <p>○起床、歯磨き、体操(運動)、勉強など一日の行動を確認する。</p> <p>○「健康に過ごすためにどんなことに気をつければいいのか」「家族の一員としてできるお手伝いはどんなことがあるのか」を問いかけ、具体的な行動を話し合えるようにする。</p> <p>◆夏休みの生活の見通しを知り、やってみたいことや頑張りたいことを具体的に考えようとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○夏休みの生活表を渡し、家で夏休みのめあてを伝えたり予定を保護者と話したりしてくるようにする。</p> <p>○ワークシートの内容や書けなかったところについて、再度保護者と話し合ってくるようにする。</p>
--	---

〈ポイント〉

安全・安心

・健康・安全な生活の仕方（知識）、家庭との協働体制

楽しさ

・幼児期や生活科での遊びの経験から、夏休みへの希望や期待
・自分のしたいことを考え計画できる楽しい雰囲気作り

成長

・夏休みにやりたいことや課題への目的意識・意欲

自立

・自分でできる（ひとりだち）するという自覚・自信、達成感

楽しさ・安全・安心

小学校に入学して初めての長期休業「夏休み」を経験する。これまでも、園で経験した児童もいるが、半数の児童は初めての「夏休み」を経験することになる。

また、経験のある児童にとってもこれまでの保護者主導の生活ではなく、「自分で考え自立して生活していける夏休み」になるように、「楽しさ・やる気」とともに心身の「安全・安心」を意識して過ごすための計画を立てさせる。

★夏休みの長さを感じ取らせる。

空白の生活表（日数分の記入用罫線があるだけの真っ白なもの）を見せて視覚で訴える。土曜日や日曜日のように、学校に行かない日がずっと続くことを想像させる。

★「楽しい夏休み」のイメージをもたせる。

幼児期から行ってきた夏の遊びや、生活科を中心とした学校での「夏の遊び」の経験などから「夏休みにどんな遊びをしたいか。どんなことをやってみたいか。」考えたり話し合ったりすることで「夏休み」への期待をもたせる。

- ・教科書の内容を見返し楽しかった遊びや活動を思い出す。
- ・園の頃の夏の遊びで楽しかったのはどんなことか。



・各家庭の様子に配慮する。

(例)「△△旅行(場所)」でなく、⇒「海で泳ぐ(やってみたいこと・すること)」を話したり書いたりする。

★「安全・安心に過ごせる夏休み」の意識をもたせる：家庭と一体となった指導の工夫が重要

夏休み中には、留守番をしたり、学校や子どもクラブに行ったり、家族と出掛けたりするなど、様々な活動や過ごし方をする。安全に安心して生活するために、その時々気を付けることなどにも触れる。

- ・健康安全と交通安全
- ・水害、地震など
- ・生活安全：出掛けるときの約束、外での約束(「いかのおすし」、帰宅時刻や家の鍵を開けるときの約束など)

成長

興味・関心や、やってみようとする意欲をもてるようする。

★「なつやすみの おてつだい」では、自分で考える→話し合う→深く考えるという活動を経て、家庭の状況(これまでの生活や家族との会話など)を考慮して決め、見通しをもたせる。

T「どんなお手伝いがちょうどよいか?」「何をした時家の人に喜ばれたかな?」

★夏休みにやってみたいことや頑張りたいこと、気を付けたいことの計画を立てたり発表したりする。

★友達や教師に認められることで自己肯定感を高める。

- ・「〇〇したら、ありがとうと言われたので、お手伝いにしたい。」
- ・「家の鍵を開けるときは周りを見るようにする。」



自立

自分で考え判断し行動するようになる。

★夏やすみの「生活リズム」(起床・就寝、食事や勉強、学校や子どもクラブに通う、お手伝い、遊びなど、1日の生活の流れ)について知り、規則正しい生活への意識や実践力を付ける。

★体調面・衛生面の確認を自分でもできるようにし、健康管理の意識をもつ。

★毎日、生活表に記入し振り返る。

生活表を付けることで、毎日を振り返る習慣付けをしていく。

- ・「おてつだい」はできたか
 - ・「せいかつのめあて」は守れたか
 - ・守れなかったことは次の日頑張ろう(どうしたら守れるか考えてみよう)
- できたことは認めてもらい自信をもつ。また、反省したことを、次の日から頑張ろうとする意欲(学びに向かう力)につなげていく。

(保護者や家族の温かい見守りや指導の工夫が大切)



家庭との連携

※P115「社会に開かれた教育課程」参照

夏休みのめあてや生活表(例)

～生活科で学んだこと(学校での学び)を実生活(家庭・地域社会)で生かす～

この学習が基礎になり、様々な計画表を立てて活用する経験を積んでいきます。小学校スタート時の児童にとって楽しく活用しやすいシートの工夫をしましょう。

○多くの一年生は、まだ字を小さく書けません。また、まっすぐ書くことも難しいです。
○記入欄は広くし、何行も書くときは罫線で区切っておきましょう。

たのしみだね なつやすみ

1ねん 2くみ なまえ()



めあて：なつやすみに やってみたいことや がんばりたいことを かんがえよう。

A児

やってみたいこと	まいにち がんばりたいこと	
	せいかつの めあて	おてつだい
うみでおよぐ。 すいかわつてすい かをありたい。	7じにおきる。 あさがおのみ ずやり。	ごはんのとき みんなめしをし なげろ。

なつやすみの おわり に かうう。

やってみたいこと・がんばりたいことは できましたか?	せいかつの めあては まいにち まもれましたか?	おてつだいを まいにち することが できましたか?
うみでおよげました。 すいかわつてすいはできなくて す。	まいにちでき ました。	いつでもできま した。

B児

やってみたいこと	まいにち がんばりたいこと	
	せいかつの めあて	おてつだい
そのヨーヨーをつ てみたい。	はやねはやお きをする。	たべおやつたみん なのしよきをかた づける。

なつやすみの おわり に かうう。

やってみたいこと・がんばりたいことは できましたか?	せいかつの めあては まいにち まもれましたか?	おてつだいを まいにち することが できましたか?
えいごでそのヨーヨー つくりました。	まいにちできま した。	りよこえにいつてるよ きはできませんでした。

手伝いは、あまり難しくなく短時間でできる内容に

児童が守れる具体的なめあて(生活表に付ける際に守れたかどうか児童に分かるように)、「早寝早起き」の時刻を話し合っ
てから始める。
例「早寝は9時で早起きは7時にしたいな」「ラジオ体操は公園で6時半からよ」「それなら、6時にするよ」「そうね」「生活表に付けるとき、もし6時5分とか、ちょっと過ぎたら守れなかったことになるの?」「ぴったりでなくても、少し前や少し後ならいいよ。長い針が10から2までならよいことにしましょう。寝るときもね。」

コラム

「社会に開かれた教育課程」とは?

平成29年に行われた小学校学習指導要領の改訂は、平成28年中教審答申を踏まえて、3つの内容を基本的なねらいとして行った。その第1番目のねらいである。

- ① 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実績や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

「小学校学習指導要領平成(29年告示)解説 総則編」より

学習指導要領と教育課程

学習指導要領は教育課程の基準を大綱的に定めたもの

教育課程を通してこれからの時代に求められる教育を実現していくには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を作るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

(・・・中略・・・)

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなる事を期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)前文」より

令和元年度 たのしい なつやすみ

1ねん くみく

やっていたこと **かいすしよく・キャンプ**

おてつだいのめあて **まいにちはやねはおき**

★おてつだいのめあて **そうじ・しよくたくのじゅんてい**

なつやすみの せいかつひよう ※めあてができたなら、マークに すきないろをぬりましょう。
※おでかけなどで おてつだいが できないときは、しせん(り) でもいいです。

日	おてつだいのめあて	できごと	しせん(り)	すきないろ
7月20日		かいものへいきました。さんぽもしました。	●	★
7月21日		とんぼとゾリをいきました。	●	★
7月22日	かいていもん	つやのぞじれました。	●	★
7月23日	カービィ	おかしさんとおかいものへいきました。	○	★
7月24日	おかし	ほんかごをいってあげました。	●	☆
7月25日	プール	とんぼへいきました。	●	★
8月30日	なつやすみ	なすへりごうをいきました。	○	★
8月31日		おれせんにおてつだいをかえしました。	●	★
9月1日		しんがきのじゅんていをしました。	●	★

たのしかったこと、がんばったこと、ここにのこったこと
かいていしよくとまはなびが、とてもたのしくていんじょうにのこりました。

おうちのひとから
なつやすみの宿題もよくやることができました。

まとめの言葉(欄外など) : 担任も心を込めて認め価値付けを!

《おうちのひとから》欄への依頼

- ・児童向けに書いていただきますよう。
- ・児童が次なる意欲につながる表現に。

児童にも分かるように、ひらがなで。漢字でかく場合は、ふりがなを付けるようお願いしておきましょう。

一年生は色塗り大好き！きちんと色塗りしたい子も。マークは単純に大きめに。

おうちのひとから
はじめてのなつやすみ、まいにち、とてもたのしくにすごしていただいてよかったです。

おうちのひとから
あつまいにちをけんきにすこせました。めあてをいきして、がんばっていました。たろさん、たのしいけんきをして、よくわらっていただきました。おそろいさぶらして、ありがとうございます。

おうちのひとから
夏らしい遊びがたくさん出ました。初めての夏休みの宿題も意欲的に取り組み、毎日コツコツやる様子は立派だと思っています。

担任と保護者の連携により、心身の健康や、めあて、経験の大きさなど、温かく、かつ適切に書いてくださっています。

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す
これまで以上に保護者との連携・協働を重視

新学習指導要領による新しい教科書には

「保護者の皆様へ」の伝言や、保護者が一緒に学べる二次元コードによる情報等が掲載されています。

学校で学んだことを実生活で生かす

★夏休み前(事前) : 一年生の生活科で学んだことが、家庭での「夏休み」の実生活に生かせるよう学習内容を理解していただく。

- 夏休み中の生活や活動について、その内容や意図、計画などを1学期末の保護者会等で十分に伝え、児童の見守りや指導(家庭教育)について考えてもらえるようにする。
- 夏休みの計画(生活表や「めあて」の表)を立てる授業よりも早めに保護者に協力を依頼しておく。(保護者会や学年・学級便りなど活用)
- ・「夏休みのめあてやおてつだい」について、児童が自分で考えて決める際の基になるような家庭でのアプローチ(日常生活の中で、夏休みの話や、やりたいこと、やってもらいたいことの話など)を事前をお願いしておく。
- ・児童にできそうで家の役に立ついくつかの活動を、「夏休みに行う手伝い」として例に挙げ、普段の生活の中で話題にしたり、手伝えるようにしておく。「夏休みの計画」を立てる授業時に、児童は家庭での生活を想起できるので、主体的に自分で考え判断して決める「おてつだい」が、家族の納得のいく手伝いと概ね合致することになると考える。(児童にとっては、授業中に自分が考えて決めたことを家に持ち帰った際に自分の意思とは違う手伝いなどを書き直すようなことになると、実際に活動するときの自信や意欲につながらない)

★夏休み後(事後) : 「学校教育」と「家庭教育」の連携・協働体制の振り返り

○児童が書き上げた40日以上 of 長期間に及ぶ生活表等について、保護者や担任はまず取り組めたことを認め児童に成就感をもたせる。

なお、生活リズムについては、夏休みの終わりの頃の状況が2学期最初の生活に影響してくることも考慮に入れ、継続して2学期以降も連携・協働体制が必要となる場合があります。

事例8

第1学年

9月
第1・2週

あかるく げんきに 2がっき すたあと

◎ 生活リズムを取り戻そう ◎ 友達と関わりながら楽しく主体的な学びをしよう

長期休業明けの生活の立て直し：登校して先生や友達と関わるのが楽しいと感じられるようにしましょう。

A 安全・安心・楽しさ ⇨ B 成長 ⇨ C 自立

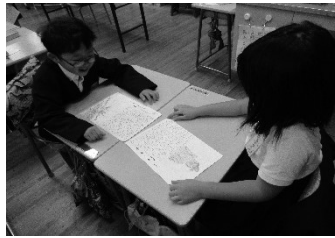
事例 ①

国語・生活(合科)： なかよし・チャレンジタイム(A・B)

〈単元〉「ききたいな ともだちのはなし」

〈ねらい〉

- ① 思い出して友達に話すことができる。
- ② 様子を思い浮かべながら聞くことができる。
- ③ 知りたいことを聞いたり感想を言ったりする。
- ④ 質問に合うように答える。



〈指導のポイント〉

- 国語のカリキュラムに合わせ、休業明けの早い時期に行う。
- 自分の一番気に入った夏休みの作品など、視覚に訴える物を見せたり、クラスの実態によってはペアやグループ活動(少人数)で恥ずかしがらずに自己を表出できるよう工夫する。
- 見たり聞いたり話したりするなど、多様な授業展開を工夫し、2学期始めの楽しい時間になるようにする。

T：「皆さんは、夏休みにどんなことをしたのでしょうか」

A：ぼくは毎日アサガオの水やりをしました。花はピンクで毎日咲きました。(観察カードや絵画等を見せながら話す)

B：花はいくつ咲きましたか？

A：毎日1つか2つ咲きました。

事例 ②

学級活動： わくわく・チャレンジタイム(B・C)

〈単元〉「毎日の生活を 振り返ろう」

〈ねらい〉 2学期も規則正しい生活を送ることができるよう、児童自身が「生活チェック表」を付け、振り返る活動をすることで、「家庭や学校生活のリズム」を意識付けさせる。

〈指導のポイント〉

- 生活チェック表に取り組んだことに対して、自己評価したり友達と見せ合ったりするなど具体的な活動で意識化を図る。

生活チェック表(例)

2がっき (9月7日～9月11日)				なまえ		
こうもく	2点	1点	0点	7日(月)	8日(火)	9日(水)
1 はやね (きのう)9時までにねた。	10時までねた。	10時をすぎてねた。		1	2	2
2 はやおき 7時までにおきた。	7時～7時30分までにおきた。	7時30分をすぎておきた。		1	2	2
3 朝ごはん たべた。	(やさいやくだものもたべた)	たべなかつた。		2	2	2
4 テレビやゲーム 30分以内。	30分～1時間30分。	1時間30分をいじょう。		2	2	2
5 じぶんのめあて	はをしっかりみかく。	みかくて1週間もつづきませんでした。		2	2	2
おうちの人のサイン						
★おうちの日、よるのほみがきがあつたら、チェックをしよう。						
●0日曜をふりかえって、1、2、3のどれかに○をつけよう。 ●おうちのから						
1. よくできた 2. できた 3. もう少し						
●これからがんばりたいこと						
おてつだいをする。						

事例 ③

生活：成長 ⇨ 自立

〈単元〉「たねとりをしよう」

〈ねらい〉

- ① 実を採って中の様子を観察できる。
- ② まく前の種と比較できる。(観察カード)
- ③ 種から育ててきたことを振り返る。
- ④ 夏休み中の朝顔の世話などの活動を振り返る。

〈指導のポイント〉

- アサガオの実から種採りをし、たくさん採れた嬉しさや満足感を味わわせる。今後の活動への自信や意欲につなげる。
- 種を採った後の蔓でリース作りなどをすると、一層愛着がもてる。(図工と関連させてもよい。)

わくわく・チャレンジタイム(B・C)

ぼくは毎朝アサガオの水やりしてみたよ！(成長)
よくがんばって世話したね！(認める・賞賛)



もう〇〇は教わらなくても自分でできるよ！

よし！今度は、家で育ててみよう！ (自立)